



新型コロナウイルス感染症への対処方針

- 毎日、下記の症状が全てないか健康観察を行っていく
 - 発熱
 - 全身倦怠感
 - ぼーっとする
 - 嗅覚・味覚障害
 - 咳・息苦しさ・咽頭痛
 - 吐き気・嘔吐
 - 食欲低下

- 選手及び**家族も**含めたチーム関係者に新型コロナウイルス感染症の疑いが出た場合
 - I) 検温にて体温が37℃以上となった場合
 1. トレーナーに報告する
 2. トレーナーから、大塚監督・柳野部長へ連絡

※その他にも、1)風邪症状がある場合 2)強いだるさ・息苦しさがある場合
3)熱があり呼吸器疾患がある場合 4)嗅覚・味覚傷害がある場合

も報告の対象となる。

 - II) 37℃以上の発熱が2日間以上持続した場合
 1. かかりつけ医(内科)を受診し、今後の対応を伺う。
 2. かかりつけ医で伺った対応を、トレーナーに報告する。
 3. トレーナーより大塚監督・柳野部長・チームドクターに報告する。
 4. 本人は新型コロナウイルスに関する報告書(別紙)に必要事項を記載してもらう。
 5. 別紙をもとに濃厚接触者を確認する。
 6. 濃厚接触者などの対応については、チームドクターやかかりつけ医に対応を伺う。

※ 2. 以降の対応についての個人情報の共有については、本人に了承を得た後、行っていく。

- **診察の結果、新型コロナウイルス性間質性肺炎**だった場合
 - ※対応についての個人情報の共有については、本人に了承を得た後、行っていく。
 - 1. 学校、監督・部長、トレーナー・チームドクターに報告がくる？
 - 2. 本人、濃厚接触者についての対応は県や各自治体、学校の対応に従う。
 - ※必要であれば、新型コロナウイルスに関する報告書(別紙)に記載し、濃厚接触者の有無を確認。
 - 3. チームの練習についても、2. と同様に対応に従う。
 - 4. 本人の練習参加については、主治医の意向に従い、主治医の許可が降りてから練習に参加する。
 - ※主治医から診断書などの証明を発行してもらい、チームに渡す。

- **診察の結果陰性**だった場合
 - 上記にある、毎日の健康観察項目にて、一つでも該当する症状があった場合は、直ちにトレーナーへ報告すること。



選手および組織に求められる感染予防対策

(1) 毎日の健康チェックと行動記録

- ・体温測定：起床直後・就寝前など決まった時間での体温記録
- ・健康チェック：倦怠感、咳、咽頭痛、食欲低下の有無、睡眠時間など
- ・行動記録：食事や出向いた場所・同行者などの記録

(2) 手指衛生の励行

- ・消毒用アルコール剤による手指消毒と、流水と石鹼による手洗いで十分な予防効果が期待できます。

(3) 出来るだけ人ごみを避ける

- ・人ごみに入る場合にはマスク着用

(4) 部室・クラブハウスなどでの濃厚接触の回避

- ・部室・クラブハウスの時間差利用、可能な限り2m以上のヒト-ヒト間隔がとれるよう配慮する。

(5) 部室・クラブハウス・ベンチ・トイレなどにおける環境消毒の徹底

- ・高頻度接触面に対して次亜塩素酸ナトリウム等を用いて環境消毒を行う。
- ・トイレ個室に便座クリーナーまたはアルコール消毒スプレーを配備。利用者には毎回の使用を呼びかけ。
- ・ドアノブ、手すり、蛇口の定期的な消毒

(6) 選手、チーム関係者、家族に対する教育・啓発と意識改革

- ・車・バス・電車などでの移動時の換気、空間遮断による濃厚接触の回避
- ・マスクを使用する際の付け方、外し方、交換のタイミング、手指衛生を学ぶ(指導する)
- ・人ごみに入るなど濃厚接触が生じた場合の記録(主なものを報告、あるいは日記)

(7) 飲み物、ビブスの使いまわしを回避

- ・スクイズボトルを多くの選手で使いまわすのではなく、各自持参するような形で対策する。
- ・ビブスは一度使用したものは再度使用せず、洗濯へまわす。

(8) 富山第一高等学校での指針等(部室の時間帯使用など)があれば、順次それに従う。

NPB・Jリーグ共同声明 参照
厚生労働省 HP 参照